

E-Post BossCheck Server

追加機能補足マニュアル

2008年7月 Rev1.1

2009年8月 Rev1.2

2010年1月 Rev1.3

2014年7月 Rev1.4A

2014年7月 Rev1.4B

2015年2月 Rev1.5



株式会社イー・ポスト

E-Post およびイー・ポストは、株式会社イー・ポストの日本における登録商標です。

Microsoft、Windows および Windows Server は、米国およびその他の国の Microsoft 社の登録商標または商標です。

その他の社名および製品名は、それぞれの会社の登録商標または商標です。

本マニュアルの無断複製および引用を禁じます。

©イー・ポスト

E-Post BossCheck Server 追加機能補足マニュアル 目次

2008年6・7月アップデートでのBossCheck Server 機能強化点	3 -
① [(新設) 保留通知メール]: 送信者が送信したとき、承認者(上長)が承認するまでメールが保留される旨の“保留通知メール”が送信者宛に送られるように設定できる。	4 -
② [(新設) 承認待ちメールの取得機能]: 送信者が自分の送ったメールがどのくらい承認待ちになっているか、コマンドを送ることにより、随時、承認待ちメールを取得し内容を知ることができる。	5 -
③ [(新設) 代理承認者の代理設定機能]: 承認者(上長)が代理承認者を設定した後、代理承認者がさらにその代理を設定できる。設定で何段階までかの階層指定も可能。	6 -
④ [(改善) 承認待ちリスト取得機能]: 承認者(上長)が、waitlist_コマンドで承認待ちリストを取得したとき、タイトル(件名)と一緒に表示されるようになった。	7 -
⑤ [(改善) 送信済み承認メールの情報表示]: 承認者が送信済み承認メールの表題からは、承認メールの件名部分がエンコードされているため、これまでは内容が判断できなかったが、送信済みメールを表示すると、送信日付、送信者(承認依頼者)アドレス、件名情報が本文中に表示されるようになった。	8 -
⑥ [(改善) 承認依頼メールの送信先アドレス表示]: 承認者(上長)が、承認依頼メールを受信したとき、[承認][却下]の下に、[送信先アドレス]が表示されるようになった。これにより、メールヘッダだけでは確認できないBCCで指定したアドレスも知ることができるようになった。	9 -
⑦ [(改善) 代理承認者宛の通知メール]: 代理承認者宛に「代理承認者になった」旨の通知メールが届けられるようにした	10 -
⑧ [(改善) 代理承認者アドレスの入力ミス検知]: ⑦と関連するが、承認者が「setproxyuser_代理承認者アドレス」を指定する際、間違えて存在しないアドレスを指定した場合、通知メールが不達になることで、承認者に返される“delivery failure”メールもしくは、“user unknown”メッセージにより、間違いに気づくことができるようになった	10 -
2009年8月アップデートでのBossCheck Server 機能強化点	11 -
① [(改善) 代理承認・代理承認解除時のメッセージが変更可能]: 代理承認・代理承認解除時の通知メールのメッセージが変更できるようになった	12 -
② [(改善) 代理承認者宛の解除通知メール]: 代理承認者宛に「代理承認者が解除された」旨の通知メールが届けられるようにした	13 -
2009年12月アップデートでのBossCheck Server 機能強化点	14 -
① [(改善) 開封通知メールの除外設定]: 添付ファイル付きの条件下でも開封通知メールを除外対象にできる	14 -

2012年11月アップデートでのBossCheck Server 機能強化点	16 -
① [(新設) 論理和指定機能コード] : 上長承認の条件指定項目に「添付、キーワード」の論理和指定機能コード”3”を追加した	16 -
2014年7月アップデートでのBossCheck Server 機能強化点	17 -
① [(改善) 上長承認記録ログ] : 送信元IPアドレスと送信先アドレスをログに記録できるようになった	17 -
② [(公開) 2人を超える承認者設定] : 2人を超える承認者を設定するオプション	18 -
2015年2月アップデートでのBossCheck Server 機能強化点	19 -
① [(改善) 承認依頼メール] : 承認依頼メールのmailtoリンクの生成時の文字コードを変更可能にした	19 -

2008年6・7月アップデートでのBossCheck Server 機能強化点

2008年6月・7月アップデートによるBossCheck Server 機能強化のポイントは下記の通りです。

アップデートは、2008年6月のE-Post Mail Server および E-Post SMTP Server の修正差分プログラムを適用することで行われます。EPSTRS のバージョン v4.57 以降が以下の機能を利用できます。

① [(新設) 保留通知メール] :

送信者が送信したとき、承認者(上長)が承認するまでメールが保留される旨の“保留通知メール”が送信者宛に送られるように設定できる。

② [(新設) 承認待ちメールの取得機能] :

送信者が自分の送ったメールがどのくらい承認待ちになっているか、コマンドを送ることにより、随時、承認待ちメールを取得し、内容を知ることができる。ただし、あくまで送信者自身が送ったメールが対象。

③ [(新設) 代理承認者の代理設定機能] :

承認者(上長)が代理承認者を設定した後、代理承認者がさらにその代理を設定できる。設定で何段階までの階層指定も可能。

④ [(改善) 承認待ちリスト取得機能] :

承認者(上長)が、waitlist_コマンドで承認待ちリストを取得したとき、タイトル(件名)と一緒に表示されるようになった。

⑤ [(改善) 送信済み承認メールの情報表示] :

承認者(上長)が、承認した後、送信済み一覧の表題を見ると、承認メールは、“approval・・・”で始まり、却下メールは、“reject・・・”で始まるが、タイトル(件名)部分がエンコードされているため、従来は送信済み一覧からでは内容が判断できなかった。アップデート後は、送信済み一覧から送信済みメールを選択すると、送信日付、送信者(承認依頼者)アドレス、および件名の情報が本文中に表示されるようになった。

⑥ [(改善) 承認依頼メールの送信先アドレス表示] :

承認者(上長)が、承認依頼メールを受信したとき、[承認][却下]の下に、[送信先アドレス]が表示されるようになった。これにより、メールヘッダだけでは確認できない BCC で指定したアドレスも知ることができるようになった。ただし、TO,CC,BCC の表示上区別はない。

⑦ [(改善) 代理承認者宛の通知メール] :

代理承認者宛に「代理承認者になった」旨の通知メールが届けられるようにした。

⑧ [(改善) 代理承認者アドレスの入力ミス検知] :

上記⑦と関連するが、承認者が「setproxyuser_代理承認者アドレス」を指定する際、間違えて存在しないアドレスを指定した場合、通知メールが不達になることで、承認者に返される “delivery failure”メールもしくは、“user unknown”メッセージにより、間違いに気づくことができるようになった。なお、上記⑦⑧に伴う制限事項として“sender.dat”に設定できる(最初の)承認者は、仕様として、2つのアドレスまでとなった。

① [(新設) 保留通知メール] :

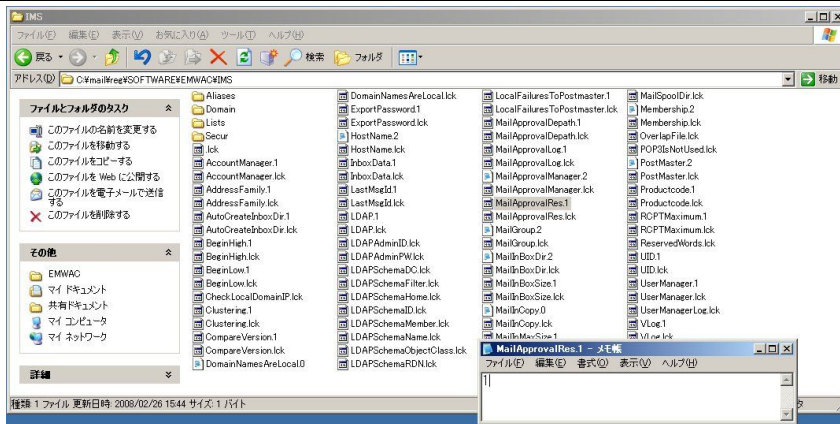
送信者が送信したとき、承認者(上長)が承認するまでメールが保留される旨の“保留通知メール”が送信者宛に送られるように設定できる。

送信者が送信したとき、承認者(上長)が承認するまでメールが保留される旨の“保留通知メール”が送信者宛に送られるように設定できるようになりました。

アップデート後、次の設定が必要です。

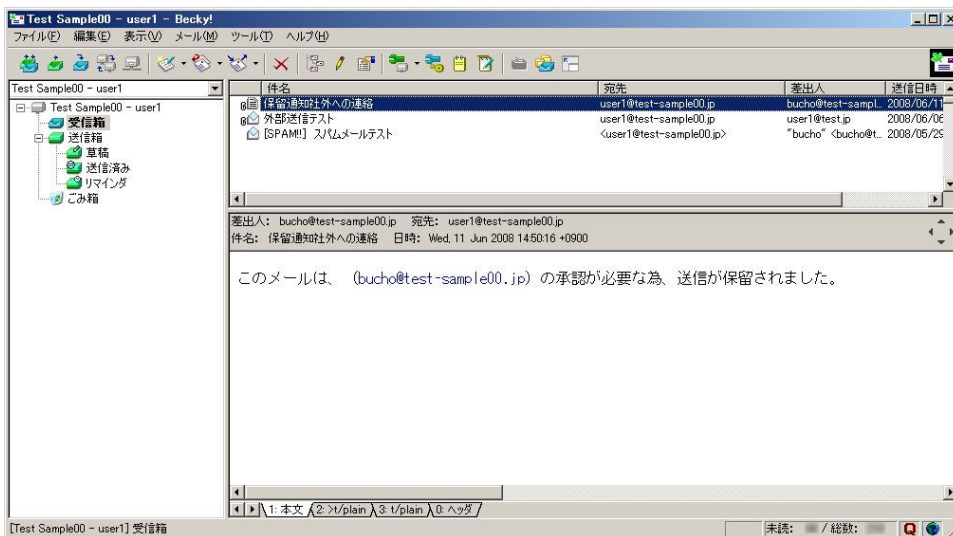
メール作業フォルダ(例・C:\¥mail など)の下記指定フォルダ内に”MailApprovalRes.1”という名前のテキストファイルを作成し、その中に設定値を記述します。

```
<メール作業フォルダ>\¥REG¥SOFTWARE¥EMWAC¥IMS¥MailApprovalRes.1
(デフォルト値=1 / 0:保留通知なし, 1:保留通知あり)
```



保留通知メールが不要な場合は”0”、保留通知メールが必要な場合は”1”を記述します。行末の改行は不要です。ファイルを保存したら、Mail Control 画面の [サービス制御]タブより、EPSTRS サービスを再起動させてください。

承認が必要なメールを送信者が送ると、直後に“保留通知メール”が送られてきます。



▲Becky! InternetMail の事例

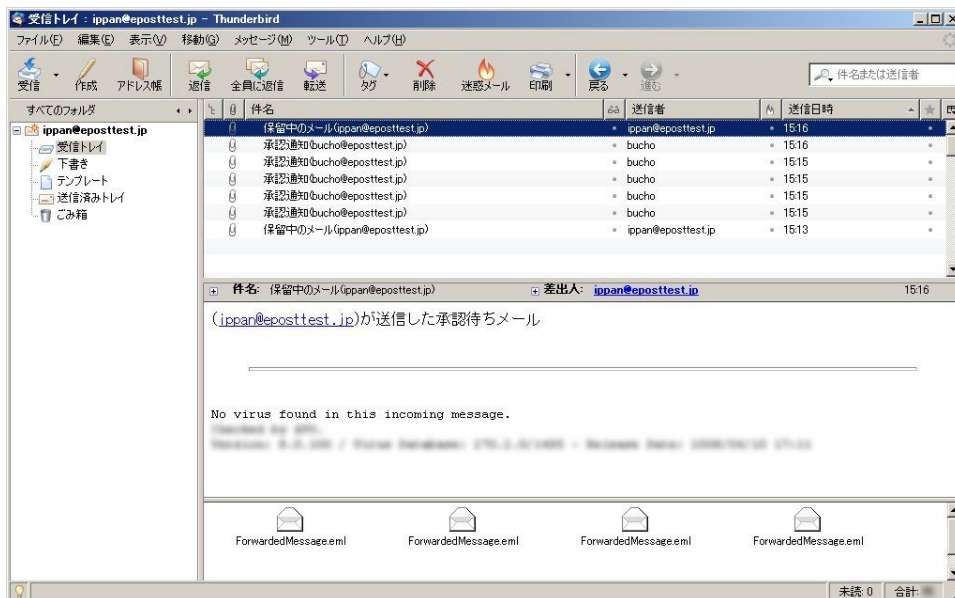
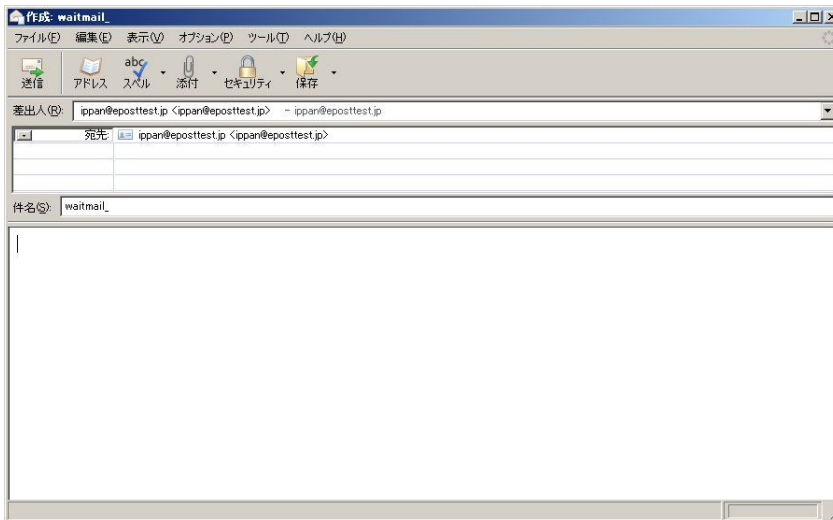
② [(新設) 承認待ちメールの取得機能] :

送信者が自分の送ったメールがどのくらい承認待ちになっているか、コマンドを送ることにより、随時、承認待ちメールを取得し内容を知ることができる。

送信者が自分の送ったメールがどのくらい承認待ちになっているか、コマンドを送ることにより、随時、承認待ちメールの内容を知ることができるようになりました。ただし、あくまで送信者自身が送ったメールが対象となります。

アップデート後の設定は不要です。

送信者が件名に”waitmail_”とだけ入力し、自分宛に送ると、直後に“承認待ちメール”が.eml形式で添付されて送られてきます。



▲Thunderbird の事例

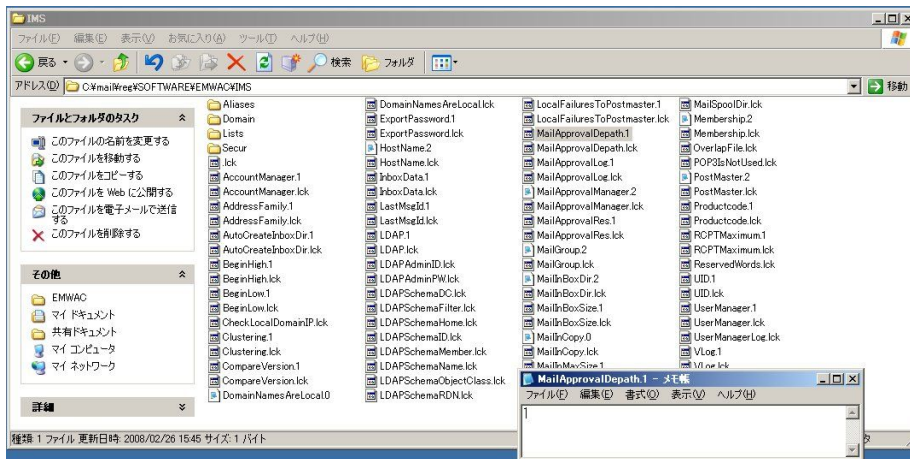
③ [(新設) 代理承認者の代理設定機能] :

承認者(上長)が代理承認者を設定した後、代理承認者がさらにその代理を設定できる。設定で何段階までかの階層指定も可能。

承認者(上長)が代理承認者を設定した後、代理承認者がさらにその代理を設定できるようになりました。設定で何段階までかの階層指定も可能です。設定上は多段階が設定可能ですが、実際の運用ではあまりにも複雑になってしまうため、せいぜい2段階、つまり代理の代理承認を1階層までにとどめた指定を推奨します。代理の代理承認を1階層まで認めるなら”1”を指定します。ファイルを保存したら、Mail Control 画面の [サービス制御] タブより、EPSTRS サービスを再起動させてください。

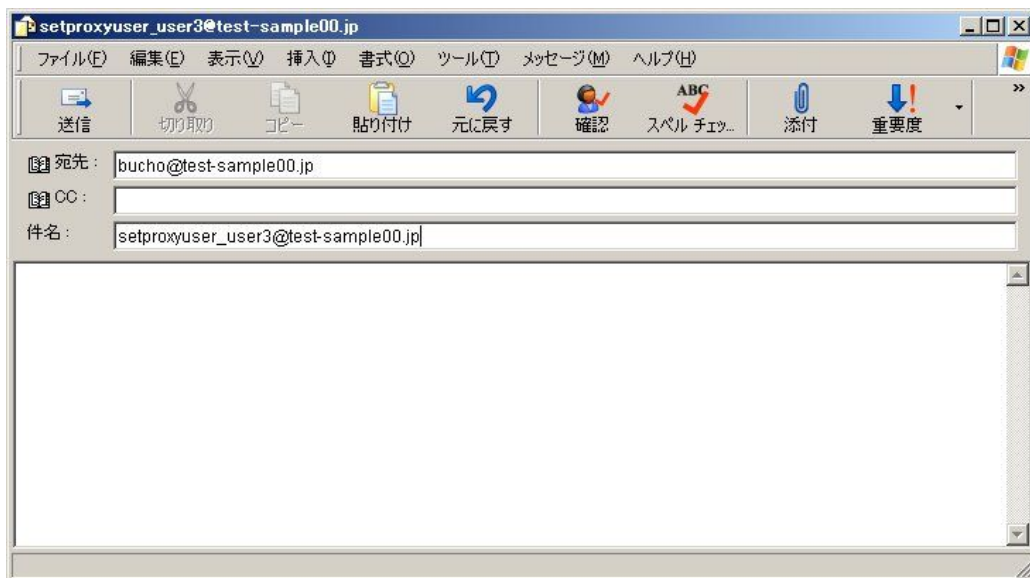
通常の代理承認のみなら設定ファイル自体を削除してください。”0”を指定することはできません。

```
<メール作業フォルダ>%REG%SOFTWARE%EMWAC%IMS%MailApprovalDepath.1
(デフォルト値=1 / 1~:回帰的に可能な代理承認の深さ)
```



承認者が代理承認を設定する方法は、従来通り、件名に”setproxyuser_[代理者のメールアドレス]”を入力し、自分宛に送信します。代理承認者がさらに代理承認を行う方法も、同じ方法で行います。

代理承認の解除については、本来の承認者が件名に”setproxyuser_”とだけ入力し、自分宛に送信します。



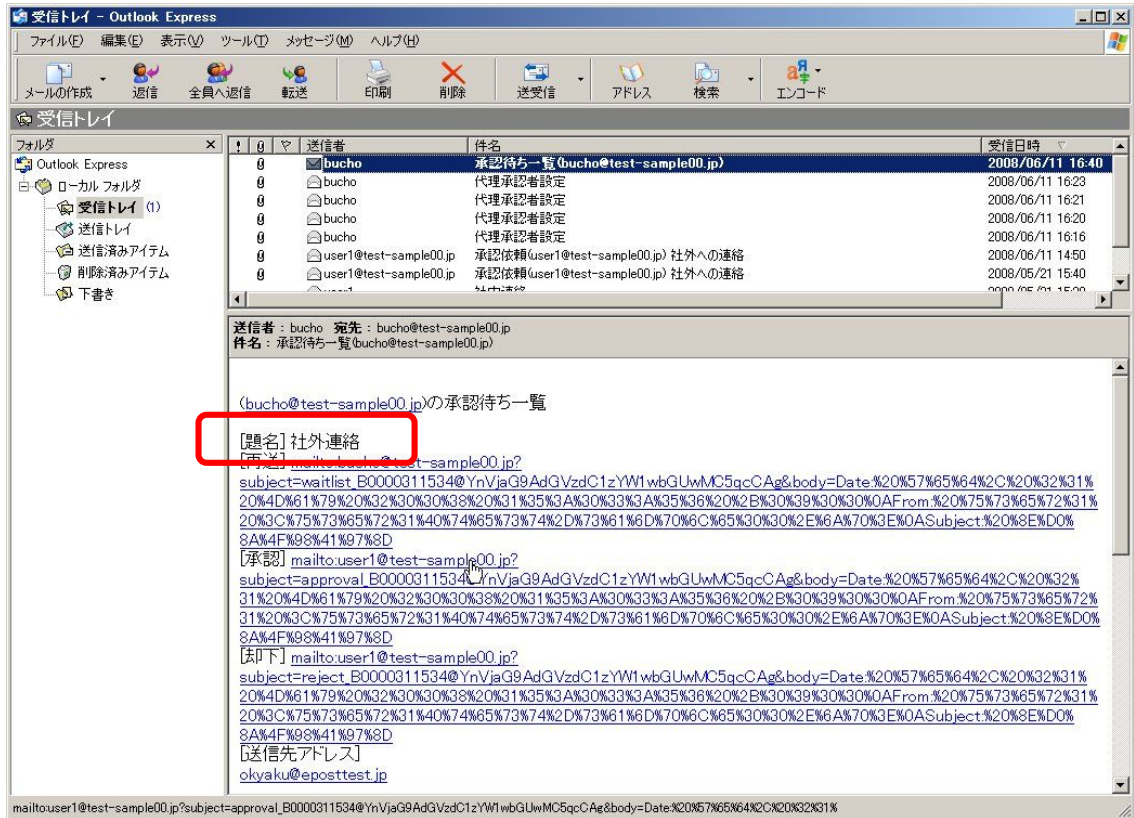
▲ Outlook Express の事例

④ [(改善) 承認待ちリスト取得機能] :

承認者(上長)が、waitlist_コマンドで承認待ちリストを取得したとき、タイトル(件名)と一緒に表示されるようになった。

承認者(上長)が、waitlist_コマンドで承認待ちリストを取得したとき、タイトル(件名)が[題名]として、一緒に表示されるようになりました。

アップデート後の設定は不要です。



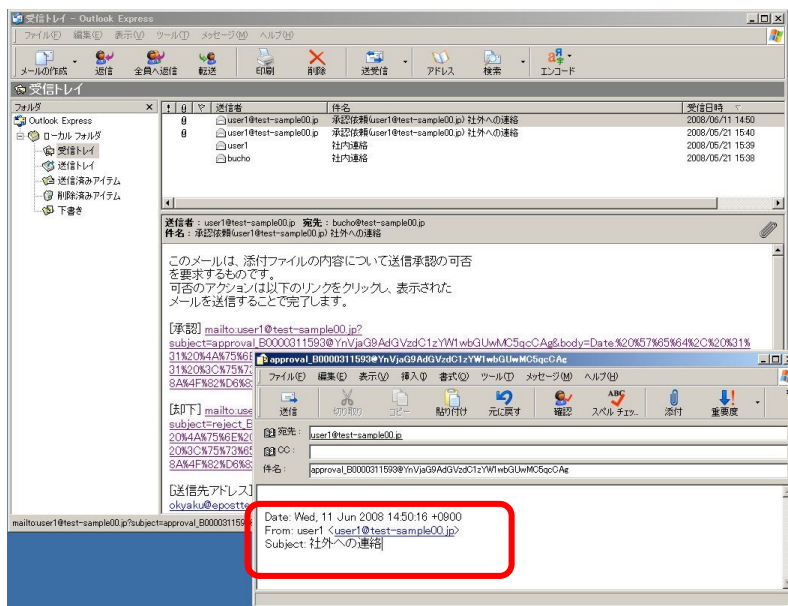
▲ Outlook Express の事例

⑤ [(改善) 送信済み承認メールの情報表示] :

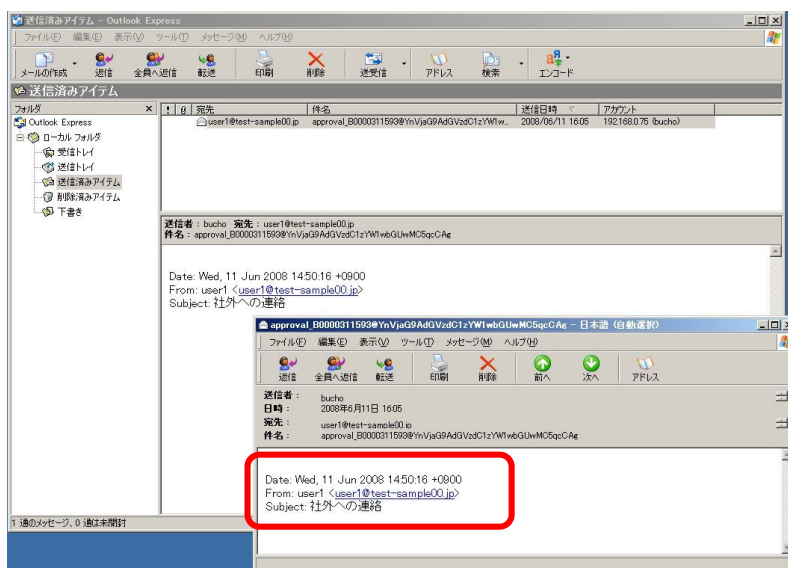
承認者が送信済み承認メールの表題からは、承認メールの件名部分がエンコードされているため、これまでは内容が判断できなかったが、送信済みメールを表示すると、送信日付、送信者（承認依頼者）アドレス、件名の情報が本文中に表示されるようになった。

承認者(上長)が、承認した後、送信済み一覧の表題を見ると、承認メールは、"approval・・・"で始まり、却下メールは、"reject・・・"で始まりますが、件名部分がエンコードされているため、これまでのバージョンでは、送信済み一覧からでは内容が判断できませんでした。アップデート後は、送信済みメールを表示すると、送信日付、送信者(承認依頼者)アドレス、および件名が本文中に表示されるようになりました。また当然ですが、送信時にも同様の内容は確認できます。アップデート後の設定は不要です。

※なお、OutlookExpress や Outlook、Shuriken、Becky では正常に表示されますが、Thunderbird で Subject 文字部分が文字化けすることが判明しています。



▲ Outlook Express の事例(承認メールを送信するとき)



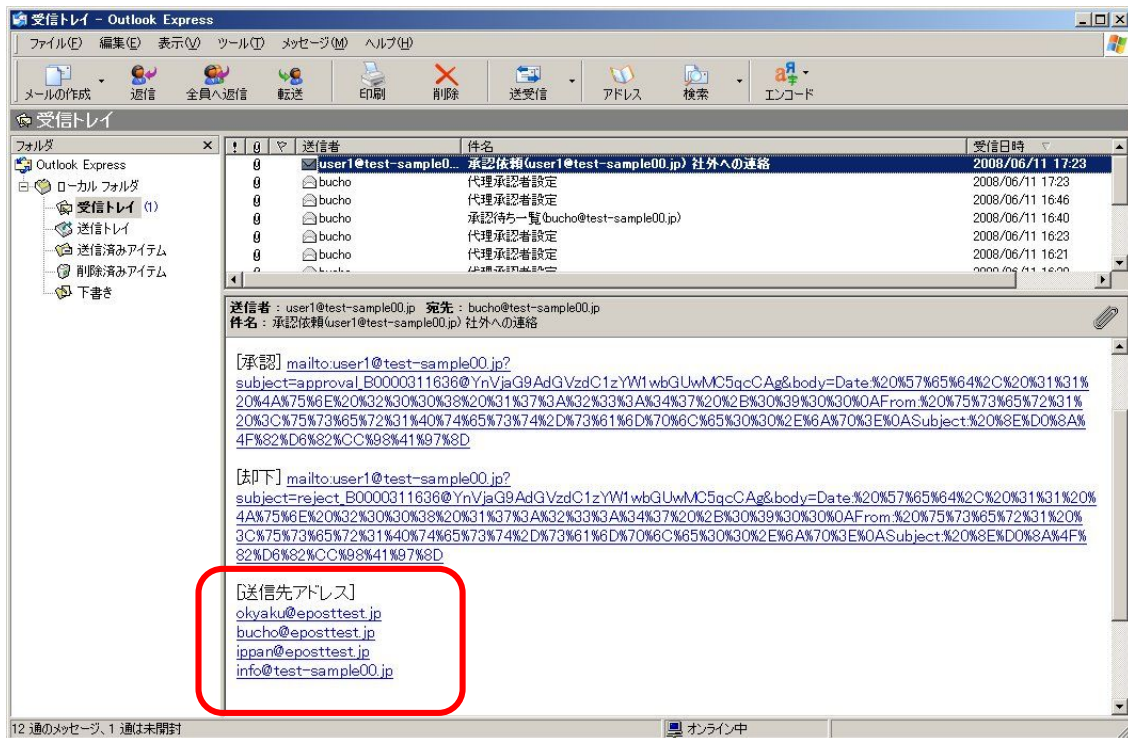
▲ Outlook Express の事例(承認メール送信済み一覧を表示したとき)

⑥ [(改善) 承認依頼メールの送信先アドレス表示] :

承認者（上長）が、承認依頼メールを受信したとき、[承認] [却下] の下に、[送信先アドレス] が表示されるようになった。これにより、メールヘッダだけでは確認できない BCC で指定したアドレスも知ることができるようになった。

承認者(上長)が、承認依頼メールを受信したとき、[承認][却下]の下に、[送信先アドレス]が表示されるようになりました。これにより、メールヘッダだけでは確認できない BCC で指定したアドレスも知ることができるようになります。ただし、TO、CC、BCC の表示上区別はありません。

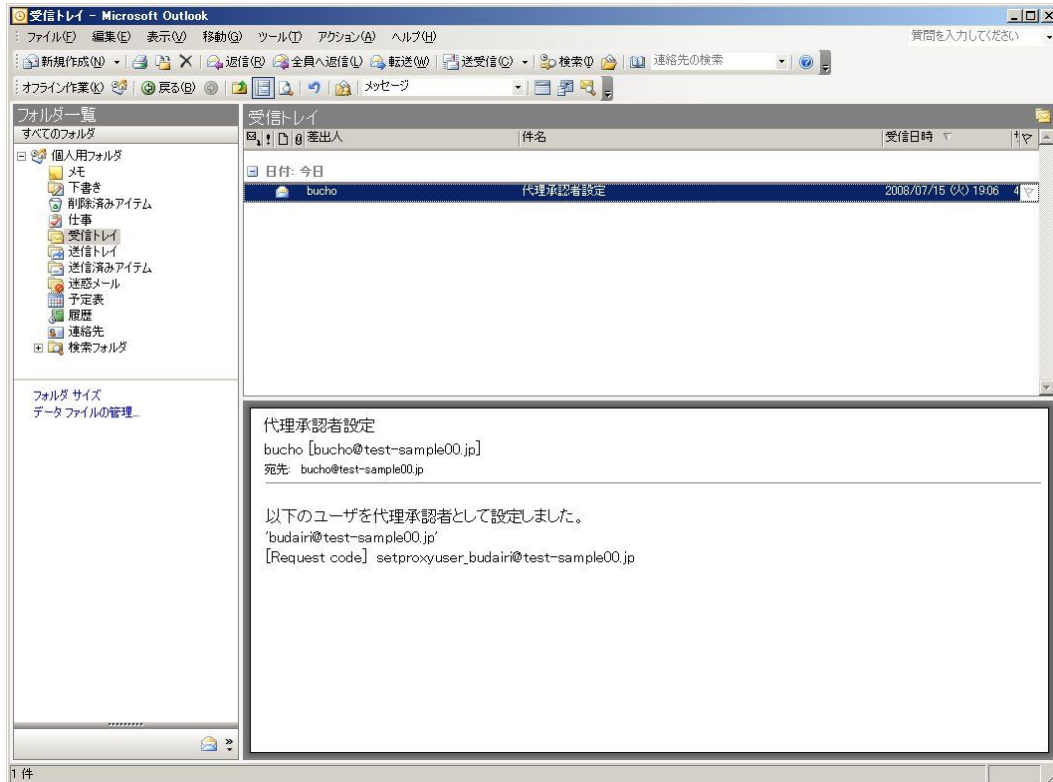
アップデート後の設定は不要です。



⑦ [(改善) 代理承認者宛の通知メール] :

代理承認者宛に「代理承認者になった」旨の通知メールが届けられるようにした

承認者(上長)が、件名に「setproxyuser_代理承認者アドレス」を自分宛に送信する方法で、代理承認を設定したとき、承認者(上長)だけでなく、代理承認者宛にも、「代理承認者になった」旨の通知メールが送られるようになりました。これにより、代理承認者は承認を開始するタイミングを知ることができるようになります。



⑧ [(改善) 代理承認者アドレスの入力ミス検知] :

⑦と関連するが、承認者が「setproxyuser_代理承認者アドレス」を指定する際、間違えて存在しないアドレスを指定した場合、通知メールが不達になることで、承認者に返される "delivery failure"メールもしくは、"user unknown"メッセージにより、間違いに気づくことができるようになった

また、同時に代理承認者宛に通知メールが送られることで、万が一、「setproxyuser_代理承認者アドレス」のアドレス部分を入力ミスしたときには、通知メールが不達になることで、"delivery failure"メールが返ってくることで、間違いに気づくことができるようになりました。

アップデート後の設定は不要です。

なお、上記⑦⑧に伴う制限事項として"sender.dat"に設定できる(最初の)承認者は、仕様として、2つのアドレスまでとなりました。

2009年8月アップデートでの BossCheck Server 機能強化点

2009年8月アップデートによる BossCheck Server 機能強化のポイントは下記の通りです。

アップデートは、2009年8月の E-Post Mail Server および E-Post SMTP Server の修正差分プログラムを適用することで行われます。EPSTRS のバージョン v4.62 以降が以下の機能を利用できます。

① [(改善) 代理承認時のメッセージが変更可能] :

承認者(上長)が代理承認を設定したり、代理承認を解除するときに、”setproxyuser_”コマンドで BossCheck Server に命令を送信するが、代理承認を設定したり、解除されたときに出力される文字列(メッセージ)が変更可能になった。変更する文字列(メッセージ)は、JIS エンコードした文字列をレジストリ情報に設定する必要がある。

② [(改善) 代理承認解除時の代理承認者への通知] :

代理承認解除時の通知が代理承認者にもメールで通知されるようになった。特別な設定は不要。

① [(改善) 代理承認・代理承認解除時のメッセージが変更可能] :

代理承認・代理承認解除時の通知メールのメッセージが変更できるようになった

承認者(上長)が代理承認を設定したり、代理承認を解除するときに、”setproxyuser_”コマンドで BossCheck Server に命令を送信しますが、代理承認を設定したり、解除されたときに出力される文字列(メッセージ)が変更可能になりました。変更する文字列(メッセージ)は、JIS コードにエンコードされた文字列を直接レジストリ情報に設定しておくことで、通知メールのメッセージが変更されます。通知メールは、承認者(上長)、代理承認者双方とも同じ内容のものが同報されるため、メッセージの内容はどちらが見ても違和感のないメッセージにする必要があります。

[代理承認設定・代理承認解除の通知メールメッセージの変更]

(1) 変更したい文字列(メッセージ)を JIS コードにエンコードします。

具体的な方法は書籍の『E-Post Mail Server 完全ガイド』P.125～P.128 か、Web の「メールサーバ構築ガイド」(http://www.e-postinc.jp/epmsent_construct_guide/)の「20.自動応答を設定してみよう」を参考にしてください。メッセージを JIS コードに変換するには、サポート2で配布している文字コード変換ツール「UnicodeConv.exe」を使うことも可能です。

(代理承認時の例) …… %s は setproxyuser_<代理承認者アドレス>で指定されるアドレス

%s が承認者に任命・就任されました。

↓

%s< \$B\$,>5G'<T\$KG\$L?!&="G\$\$5\$1\$^\$7\$?!#<- (B

(代理承認解除時の例) …… %s は使用不可

承認者権限が解除されました。上長が承認者です。

↓

< \$B>5G'<T8"8B\$,2r= | \$5\$1\$^\$7\$?!#>eD9\$,>5G'<T\$G\$9!#<- (

(2) レジストリエディタを開き、以下のキーを(文字列値)でそれぞれ作成します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE
SOFTWARE
EPOST
BOSSCHECK
proxymessage40
```

```
HKEY_LOCAL_MACHINE
SOFTWARE
EPOST
BOSSCHECK
proxymessage41
```

(3) proxymessage40 の値に、代理承認時のメッセージ、前段階で JIS エンコードした文字列を貼り付けます。



書式:%s <代理承認メッセージ>

※ %s 部分は、代理承認任命アドレスが差し込まれるトークン

(4) proxymessage41 の値に、代理承認解除時のメッセージ、前段階で JIS エンコードした文字列を貼り付けます。



書式: <代理承認解除メッセージ>

※代理承認解除時には、%s は使えません。

なお、代理承認設定・解除メッセージを BossCheck Server 標準のものに戻すには、上記で作成したキー、proxymessage40、proxymessage41 をまるごと削除します。

② [(改善) 代理承認者宛の解除通知メール] :

代理承認者宛に「代理承認者が解除された」旨の通知メールが届けられるようにした

承認者(上長)が、件名に「setproxyuser_」を自分宛に送信する方法で、代理承認を解除したとき、承認者(上長)だけでなく、代理承認者として割り当てられていた担当者宛にも、「代理承認者が解除された」旨の通知メールが送られるようになりました。これにより、代理承認者は解除されたタイミングを知ることができるようになります。アップデート後の特別な設定は不要です。

2009年12月アップデートでのBossCheck Server 機能強化点

2009年12月アップデートによるBossCheck Server 機能強化のポイントは下記の通りです。

アップデートは、2009年12月のE-Post Mail Server および E-Post SMTP Server の修正差分プログラムを適用することで行われます。EPSTRS のバージョン v4.63 以降で以下の機能を利用できます。

① [(改善) 添付ファイル付きの条件下でも開封通知メールを除外対象にできる]

BossCheck Server 上長承認機能の添付ファイル付きのメールを承認条件としているときで、Outlook Express などに実装されている「開封確認メッセージ」が先方から要求されたとき、そのときに自動または手動で送り返される「開封通知メール」が、添付ファイルの一種として承認条件に引っかかっていたが、この「開封通知メール」を除外設定することができるようになりました。

「開封通知メール」が、承認条件に引っかかっていたのは、「開封通知メール」が添付ファイルと基本構造が似かよっており、添付ファイルの一種として認識されていたのが、その大きな原因でした。

バージョン v4.63 から、添付ファイル付きメールと開封通知メールとを区別するため、Content-type ヘッダに 'report-type=disposition-notification' の指定があるときに、開封通知メールとして認識できるしくみを追加しました。このコードが含まれるメールは、添付ファイル付きのメールを承認条件としているときでも、対象から除外設定することができるようになります。

① [(改善) 開封通知メールの除外設定] :

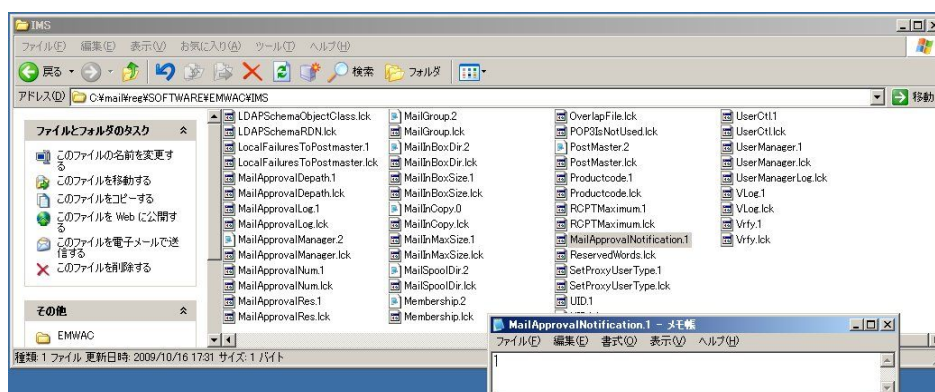
添付ファイル付きの条件下でも開封通知メールを除外対象にできる

添付ファイル付きのメールを承認条件としているとき、「開封通知メール」を対象から除外設定することができるようになりました。添付ファイル付きメールを承認条件としていないときは、この設定は関係ありません。

アップデート後、次の設定が必要です。

メール作業フォルダ(例・C:\¥mail など)の下記指定フォルダ内に” MailApprovalNotification.1 ”という名前のテキストファイルを作成し、その中に設定値を記述します。

<メール作業フォルダ>¥REG¥SOFTWARE¥EMWAC¥IMS¥MailApprovalNotification.1
(デフォルト値=1 / 1:除外する, 0:除外しない)





添付ファイル付きの承認条件を設定しているときに、「確認通知メール」を除外対象にする場合は”1”、除外対象にしない場合は”0”を記述します。行末の改行は不要です。ファイルを保存したら、Mail Control 画面の [サービス制御] タブより、EPSTRS サービスを再起動させてください。

2012年11月アップデートでのBossCheck Server 機能強化点

2012年11月アップデートによるBossCheck Server 機能強化のポイントは下記の通りです。

アップデートは、2012年11月のE-Post Mail Server および E-Post SMTP Server の修正差分プログラムを適用することで行われます。EPSTRS のバージョン v4.72 以降で以下の機能を利用できます。

●E-Post SMTP Server Standard (E-Post BossCheck Server)

差分アップデートプログラム(20120710 差分)

① [(新設) 論理和指定機能コード] : 上長承認の条件指定項目に「添付、キーワード」の論理和指定機能コード”3”を追加した

BossCheck Server 上長承認機能の上長承認の条件指定項目に「添付ファイルがあるときまたはキーワード指定」の論理和指定を可能にする機能コード”3”を追加しました。上長承認の条件を指定する[sender.dat]ファイルに「添付ファイルがあるときまたはキーワード指定」の論理和指定の設定ができるようになりました。なお、従来からの機能コード ”0” ”1” ”2” は変更なくそのまま使用できます。

[sender.dat]ファイル設定例

* :3:社外秘:xxx@xxx.jp

2014年7月アップデートでの BossCheck Server 機能強化点

2014年7月アップデートによる BossCheck Server 機能強化のポイントは下記の通りです。

アップデートは、2014年7月1日公開の E-Post SMTP Server および E-Post SMTP Server (x64) の修正差分プログラムを適用することで行われます。EPSTRS のバージョン v4.82 以降で以下の機能を利用できます。

- E-Post SMTP Server Standard (E-Post BossCheck Server)
差分アップデートプログラム(20140623 差分)
- E-Post SMTP Server Standard (x64) (E-Post BossCheck Server (x64))
差分アップデートプログラム(20140623 差分)

① [(改善) 上長承認記録ログ] : 送信元 IP アドレスと送信先アドレスをログに記録できるになった

差分適用後、上長承認記録ログを拡張するオプションが追加されるようになりますので、指定フォルダにテキストで設定ファイルを作成し、以下の説明の通り、設定値”1”を指定し、ファイルを保存します。保存したら、Mail Control 画面の [サービス制御] タブより、EPSTRS サービスを再起動させてください。送信元 IP アドレスと送信先メールアドレスが上長承認記録ログ (approval¥log) に追加されるようになります。

これにより、[承認] したときの送信先メールアドレスだけでなく、[却下] したときの当初の宛先である送信先メールアドレスもわかるようになりました。さらに、送信元 IP アドレスも記録されるようになったため、承認者アドレスを共用しているときでも、どのクライアント PC から承認を下したかの判断ができるようになりました。

```
<メール作業フォルダ>¥REG¥SOFTWARE¥EMWAC¥IMS¥ MailApprovalLogLevel.1  
(DWORD デフォルト値=0 / 履歴に送信元 IP や送信先を (0:含まない 1:含む))
```

(出力事例)



▲ 緑色…送信元 IP アドレス オレンジ色…送信先メールアドレス

② [(公開) 2人を超える承認者設定]：2人を超える承認者を設定するオプション

現行バージョンの E-Post BossCheck Server では、デフォルトでの仕様が承認者は2人までとさせていただいています。その技術的な理由は、通知メール機能や、代理承認機能を使うときに動作が複雑になっていること、さらに後述する「制約事項」に基づく OS 上の制限から来る制約回避が困難なこと、などが理由です。

EPSTRS v460 以降では、以下の通り、設定ファイルに人数を指定することで上限数を変更できるようになっています。ただし、下記の通り制約事項がありますので、注意してご利用いただくようお願いします。

"<メール作業フォルダ>%reg%SOFTWARE%EMWAC%IMS%"フォルダ内に"MailApprovalNum.1"の設定ファイルを作成、ファイル内に'3'のみを記述して保存します。記述時には数字の末尾に改行を加えないようにしてください。

<メール作業フォルダ>%REG%SOFTWARE%EMWAC%IMS% MailApprovalNum.1
(DWORD Default 2) 2人を超える承認者数 (例:承認者3人…3)

(※注意)

この設定オプションが有効なバージョンは、EPSTRS v460 以降です。

ファイルが存在しないときのデフォルト値は、'2'として動作します。

設定後は EPSTRS サービスの再起動が必要です。

(※制約事項)

この設定オプションを使って、承認者を3人以上設定することができますが、承認者の人数にかかわらず、設定できるメールアドレスには、下記の仕様に従って、システム上利用できる長さ制限が設けられています。従って、長いドメイン名や長いアカウント名では、状況によっては、設定そのものが困難なことがあります。

フルパスでの表記[メールボックスフォルダ%作成ドメイン名%アカウント名]の長さ合計が最大 200 バイトまで

(例)承認者3人=アカウントが ttanaka,ssuzuki,ssato のケース

C:%mail%inbox%testdomain.jp%ttanaka … 35 バイト

C:%mail%inbox%testdomain.jp%ssuzuki … 35 バイト

C:%mail%inbox%testdomain.jp%ssato … 33 バイト

合計 103 バイト

2015年2月アップデートでのBossCheck Server 機能強化点

2015年2月アップデートによるBossCheck Server 機能強化のポイントは下記の通りです。

アップデートは、2015年2月25日公開のE-Post SMTP Server および E-Post SMTP Server (x64) の修正差分プログラムを適用することで行われます。EPSTRS のバージョン v4.86 / v4.88 以降で以下の機能を利用できます。

- E-Post SMTP Server Standard (E-Post BossCheck Server)
差分アップデートプログラム(20150216 差分)
- E-Post SMTP Server Standard (x64) (E-Post BossCheck Server (x64))
差分アップデートプログラム(20150216 差分)

① [(改善) 承認依頼メール]：承認依頼メールのmailto リンクの生成時の文字コードを変更可能にした

E-Post BossCheck Server で自動生成される承認依頼メールでは、mailtoリンクの生成時の文字コードは、デフォルトでShift-JISで固定されています。これは、Windows環境で最も多く利用されるOutlookExpress系のWindows Mailや、Office Outlookなどでは、承認・却下メール送信時に本文中に表示されるSubject部分などの日本語文字がShift-JISの文字コードでなければ正しく表示されないためです。

しかし一方で、メーラーからmailtoリンク部分がクリックして承認・却下ができるにもかかわらず、mailtoリンク部分の文字コードをUTF-8とみなしているThunderBirdなどのメーラーや、一部Webメールソフトが存在し、そうした使用環境では、承認・却下メール送信時に本文中に表示されるSubject部分などの日本語文字が文字化け表示されていました。

こうした状況に対して、上記差分を適用し、設定ファイルを記述することで、Shift-JIS 以外の文字コードに変更することが可能になりました。ただし、一部ではなく、全ての承認依頼メールに反映されます。従って、メーラーが混在している環境ではご使用判断にお気を付けください。

<メール作業フォルダ>¥REG¥SOFTWARE¥EMWAC¥IMS¥ MailApprovalCodepage.1
(DWORD Default 932) mailto リンク生成時の文字コードテーブルを変更

[Codepage]

Shift-JIS → 932 (デフォルト)

UTF-8 → 65001

JP_EUC → 20932

JP_JIS → 50220 or 50222

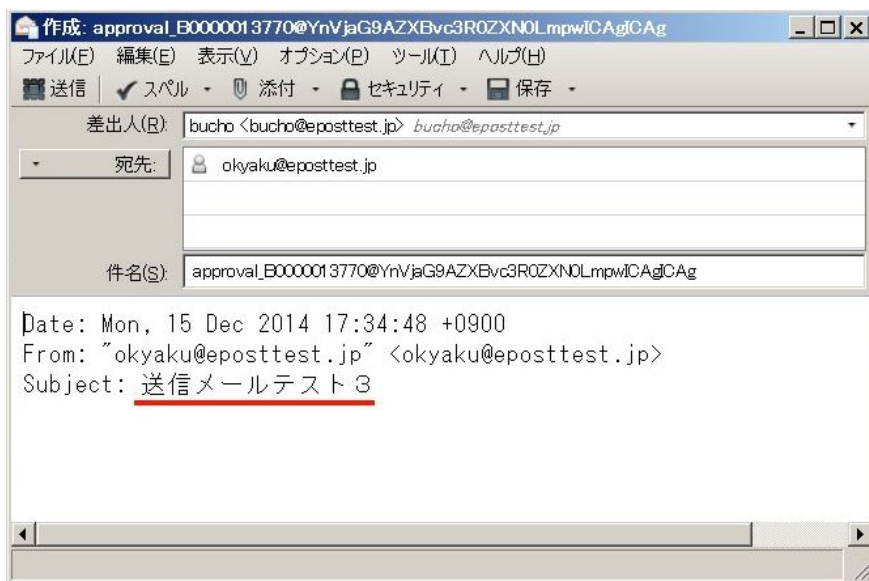
“ <メール作業フォルダ>¥reg¥SOFTWARE¥EMWAC¥IMS¥ ” フォルダ内の位置に“MailApprovalCodepage.1”の設定ファイルを作成、ファイルに数値を記述して保存します。たとえばmailtoリンクをUTF-8でエンコードしたいときには65001を記述します。その際、数字の末尾に改行を加えないようにしてください。

(※注意)

この設定オプションが有効なバージョンは、EPSTRS v486以降です。

ファイルが存在しないときのデフォルト値は、'932'として動作します。

設定後はEPSTRSサービスの再起動が必要です。



▲Thunderbirdで承認メールを送信するときの本文表示画面－従来まで文字化けしていた赤線部分の日本語が、文字化けしないようmailtoリンクで生成される文字コードをUTF-8指定できるようになった